

ふくりんの窓

～保健室だより～

当施設では、本年度より「保健室だより」を発行しています。食中毒予防や防災時の心がまえ、メンタルヘルスケアなどをテーマにした内容となっていきます。福祉の仕事に限りませんが、働くために日々の健康管理は欠かせません。職員の皆さん、心身共に健康で楽しく仕事に取り組むために、ぜひチェックしておきましょう。



管理栄養士より…

食育マメ知識

防災食について

昨年の災害を受けて、非常食は「最低で3日、推奨1週間」と言われます。また備蓄している非常食は期限が切れる前に普段の食事で摂り、新しい物を再度備蓄するようにローリングを進めます。普段の食事で食べる時に美味しく食べる方法を見つけておくのも良いですね。断水時の手洗いは、手指消毒剤やウエットティッシュの二度拭きが有効です。非常時の感染症予防にも注意をしましょう。



稲垣寿美子
管理栄養士

「台風15号」による被害に対する寄附者の皆様へのお礼

“感謝”

令和元年9月9日に発生した「台風15号」の被害に際しましては、自治体、理事会、保護者、近隣の皆様からの多大なる応援とご支援ご寄附に、心より感謝申し上げます。停電、断水、施設周辺の倒木など大きな被害が発生いたしましたが利用者の皆様の生活支援・施設の復旧・復興に活用させていただきます。

本来であれば、直接お伺いしてお礼を申し上げるべきところではございますが、この場をお借りして、お礼に代えさせていただきます。今後とも、皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

福祉のこころ

「石井亮一と知的障害者福祉と協会」

「日本知的障害者福祉協会」は、知的障害関係施設・事業所で構成している団体です。80年以上にわたって、知的障害福祉に関する政策提言、調査研究、研修会の開催、社会啓発活動などを行っています。初代会長(当時の名称は「日本精神薄弱児愛護協会」)は、日本の最初の「精神薄弱児施設(当時の呼称)滝乃川学園」の創設者である石井亮一です。明治24年濃尾地震後、亮一は震災孤児を引き取って「孤女学園」を開設しました。その中に知的発達の遅れのある子どもがいたことから、滝乃川学園を創設し、渡米してサガンの治療教育を学ぶなど、日本の知的障害福祉の基礎を築きました。

亮一より6歳以上の筆子は、明治初期に海外留学をし、華族女学校フランス語教師を勤めるなど、津田梅子(津田塾大学創始者)らと共に女子教育の場で活躍していました。筆子には亡くなった夫との間に知的発達の遅れのある長女、病弱な次女と三女の3人の娘がありました。長女を滝乃川学園に預けた筆子は、後に亮一と再婚、亮一の死後は二代目の園長として、学園の発展に尽力しました。

日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所
2019年度 受講の手引き より引用



石井 亮一



石井 筆子



滝乃川学園

編集／広報委員会

広報誌13号では『国際交流』や2019年度の行事、また防災の取り組みについて特集して参りました。表紙にある写真は、昨年実施した一泊旅行や日帰り旅行の写真となっており、利用者様、保護者様、そして職員も楽しまれた様子が伺えます。また、表紙中央の写真は新人歓迎会での様子で、今年度は4名の新人職員が加わったことにより、しいのみ園もより活気づいたのではないかと思います。

今年度は残りわずかとなりましたが、今後もしいのみ園グループの活気に満ちた情報をお届けして参りますので、どうぞご期待ください。



宇留間 俊行
知的障害福祉士
介護福祉士



橋本 玲奈
介護福祉士
保育士

令和2年

1/1 発行

第13号
新春号

ふくろう通信



発行／社会福祉法人 心友会 しいのみ園グループ 理事長 武田 昇

〒266-0003 千葉市緑区高田町1953番地1 E-Mail info@shinyukai.jp

TEL.043-291-2941 FAX.043-291-2181 URL https://www.shinyukai.jp/

法人の基本理念 親亡き後の子供たちのため、国際社会、地域社会で人間らしく、安心・安全・共生できる心豊かな施設づくり。



One Heart
One Team
One SHIINOMIEN.



特集

介護人材の確保・定着のために。
進む国際交流。

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は、新生活介護事業所「こころの誉」の開設、入所施設「絆」の稼働などのニュースがある一方、台風、風水害など、改めて防災対策の大切さを痛感した一年であります。より一層、利用者の皆様に対する安心・安全の確保及び防災設備の充実を図らなければなりません。一方、近年、社会福祉法人の社会的責任や存在意義が厳しく問われる時代となっています。経営環境の変化によって、人材育成の重要性が高まり、職員一人ひとりが各職域における知識・技術の向上を図り、一丸となって法人理念の具現化に向けて行動する事が求められています。

本年度、しいのみ園では、魅力と活力に溢れる施設として発展するためのスローガン「One Heart One Team One SHIINOMIEN.」を作成しました。全職員が、心ひとつにして施設運営に全力でとりくんでまいります。

心友会は、日本福祉施設士会会員です。「福祉QC」活動を主体に「福祉サービスの質の向上」に取り組んでいます。



外国人介護福祉士候補生 学習計画

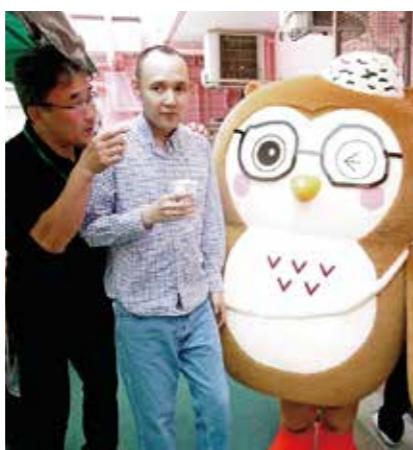
EPA介護福祉士候補生のための国家資格取得(介護福祉士)に向けた、学習支援として、日本語の継続的な学習、職場への適応促進及び日本の生活習慣習得の機会を設けています。

事業計画

- 1. 介護福祉士資格取得
 - 2. 日本語能力試験 1 級取得

プログラムの流れ

候補生はグループ内の障害者支援施設に配属され、4年間の研修期間内に国家資格取得を目指します。日本語を使っての試験は、まだ高いハードルとなっていますが、福祉の現場で活躍してもらえる人材育成ができるよう、引き続き受け入れに取り組んでいきます。



2025年、国の試算によると千葉県で
人的・文化的交流を目的とした国際貢献事
業と位置付けて、2015年よりEPA介護福祉士候補生の受け入れを行っています。
日本語を使っての試験は、まだまだ高
いハードルとなっていますが、しいのみ園グループでは、EPA介護福祉士候補生のサポート体制の充実を
確実に結果を出してきています。

時代は大きな変換点を迎えています。
定着のための一つの施策として、外国人
は介護職員が約2万8000人不足すると見込まれています。こうしたなか、しいのみ園では、国境を越えた
団体が運営する施設で、EPA介護福祉士候補生の受け入れを行っています。

障害者支援施設 しいのみ園在籍 介護福祉士

ピアオ シャナニー エナゴ (フィリピン スリガオ出身) Piao Shananie Enago



介護福祉士国家試験に合格しました。

どうしてEPAを通し
日本で働くと思ったのですか。

私には海外で働く夢がありました。そして日本に関して様々な良いことを聞いたことでEPAに申し込みました。日本は安全な国だし本当に行きたかったという気持ちでした。言葉の壁や生活の心配がありましたが、私の夢の方が大きかったので、勇気を持ってチャレンジする事にしました。

4年間の研修中に感じた事、苦労したこと、失敗したこと、楽しかった事

苦労したこと (Struggles)

現場で私の気持ちや意見が伝えられないことでストレスが溜まってしまい、辛かったです。日々チャレンジでした。メモを書いたり、誰かに聞いたりすることで現場に徐々に馴染み、自己改善を目指しました。

辛くて諦めたいときもありましたが、そんな時は、